

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	4月	12日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	本井			
取材対象先	大和郡山市：松尾寺の役行者像、十一面観音立像				

所在地	大和郡山市山田町683				
所有者(取材対応者)名	松尾寺(住職代行 平野雅裕さん)		連絡先：0743(53)5023		
	(個人情報守秘)		PCアドレス：contact@matsuodera.com		
取材申込	申込先・行政名など：松尾寺 ビイロクさん				
市町村指定文化財	彫刻	2軀	①役行者像(附：前鬼像、後鬼像各1軀) 1984(昭和59)年4月5日指定		
			②十一面観音立像(附：法華経) 1984(昭和59)年4月5日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	①本像は室町時代中頃の作で、左右に前鬼、後鬼を従えた木造では日本で最大の大きさ(像高130cm)の役行者像である。②本像は室町時代前期の作で、頭部に南都仏師の「行成」の墨書がある。体内には紙本朱書の「法華経」8巻ほか地藏菩薩・不動明王像印一紙が納入されていた。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	平野住職代行が防火管理者に任命されている。消防署との連絡体制は出来ている。有事の際は消防車が本堂下の駐車場へ上がってきて消火活動を行うこととなっている。また後方の山中に貯水設備があり、上からも放水して鎮火にあたる。消防署が定期的に設備の点検・放水訓練を行っている。	防火管理者などの体制を整えていること、また消防署と連携した体制があることから、文化財を守る意識の高さを感じた。
獣害対策	被害の有無、対策など 数年前まで猪が庭を荒らす被害があった。アライグマが天井を駆け回ることがあるが、特段の対策はとっていない。	記入者の感想 獣害による文化財への直接的被害はないが、効果的な対策がないことが悩みのように感じた。
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	①本像は「行者堂」に安置され、通常は非公開で9月の1週間の期間のみ特別公開されている。②本像は「七福神堂」の中に大黒天像・七福神像などの像とは別のスペースに安置されており通常は非公開となっている。また、本像の体内に納入されていた法華経八巻及び地藏菩薩・不動明王像印一紙は本像とは別のところで保管されている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

松尾寺は、重要文化財や県指定文化財などの多数の仏像が、本堂(重要文化財)、行者堂、阿弥陀堂、七福神堂などの建造物の中に分かれて安置されており、通常非公開のものが多く、今回の市指定文化財2軀も取材のために特別に拝見させていただくことが出来たもので感謝したい。

市町村指定文化財取材票 <裏> ①

取材日	2023年	4月	12日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	本井			
取材対象先	大和郡山市：松尾寺の役行者像				

※ 像の写真は特別に許可を得て撮影している。

文化財指定名：役行者像（附：前鬼像、後鬼像各1躯）

文化財（正面写真）	役行者像と前鬼、後鬼
	
役行者像が安置されている行者堂内部	後鬼（左） 前鬼（右）
	
文化財の由緒・説明板の有無など	所有社寺や地域（廃寺など）の歴史や特徴等
<p>本像は像高130.3cmの大きな像で間近で拝見するととても迫力を感じる像である。左右に前鬼（ぜんき）、後鬼（ごき）を従え、頭巾をかぶり肩に蓑をかけ、高下駄を履き、錫杖をもって岩座に腰掛けている。杉材かとみられる木目の粗い材の寄木造りで、胡粉地の彩色を施している。松尾山では奈良時代から修験道が行われていたことから、最も修験道が栄えた室町時代に祀られたと考えられている。説明板はない。</p>	<p>松尾寺は舎人親王が厄除けを祈願して創建した「日本最古の厄除け寺」と称されているとともに、山岳寺院として修験道が行われた寺である。特に中世に入ってから修験道当山派の拠点としても栄え、山伏の最高位である「正大先達」を幕末まで継いでいた由緒のある寺でもある。大峰登山の際には諸国から配下の山伏が集まり、役行者像を拜んでから向かった人もあった。</p>

市町村指定文化財取材票 <裏> ②

取材日	2023年	4月	12日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	本井			
取材対象先	大和郡山市：松尾寺の十一面観音立像				

※ 仏像の写真は特別に許可を得て撮影している。

文化財指定名：十一面観音立像（附：法華経）

文化財（正面写真）	不空罽索観音像などの像と祀られている文化財（中央）
	

七福神堂の中心に祀られている大黒天像

七福神堂

	
---	--

文化財の由緒・説明板の有無など

本像は、頭上に十一面化仏を戴き、右手に錫杖、左手に華瓶をとり、金銅製変形唐草の透彫り周縁部を持つ光背をつけて水中の岩座に直立する長谷寺式観音像である。像高43cmの小さい像である。頭部に「正平十七年/十一月十八日/行成」の墨書がある。行成は1353年に金剛山寺薬師如来像を仏師康成とともに造った仏師。南都仏師の作例として注目されるが、鎌倉時代の写実の彫法は形骸化して室町彫刻の特色を示している。説明板はない。

所有社寺や地域（廃寺など）の歴史や特徴等

天武天皇の皇子である舎人親王が718年に「日本書紀」編纂の完成と自身の厄除けを祈願して法隆寺東院住持の永業禅師とともに松尾寺を建立したと伝えられている。境内の南惣門を出て法隆寺に続く七曲道沿いには舎人親王が満願を祈願し観音様を感得したという「伏し拝みの地」伝承地がある。境内の山側にある松尾山神社は、親王が祈願し千手千眼観世音菩薩が降臨したとされる場所にあったという観音堂の跡に建てられたといわれ、奈良時代の鎧瓦などの出土があった。